

■鞭牛関係資料紹介■

■鞭牛使用と伝えられる 道路開削道具 (市指定有形文化財) 個人所有 (新里生涯学習センター保管)			(上)すいさび (左から) くつわ つるはし げんのう あさり (下) 金てこ
■鞭牛生誕地 和井内清水地区。現在は鞭牛が生まれた生家はなく、標柱がその跡を残すのみである。		■和井内宝鏡院(左) 幼少のころ、ここで勉強したとも伝えられ、縁の深い寺院といえる。	
■岩屋洞窟 十三仏霊場登り口から長沢川に沿って登った所にある。鞭牛はここを住居とし、座禅修行をしながら道路改修の構想を練った。		■十三仏霊場最上部 宝暦8年より2年間にわたり、十三仏霊場に多くの石碑を建立し霊場とする。	
■腹帯大淵の供養碑 宝暦8年3月23日から5日間かかり、延べ252人の手によって開削されたと記録されている。 (左)記念碑、(右)復刻碑		■褒地ふぐとりの道供養碑 宝暦8年(1758)4月。8日間で延べ918人の村人が協力したと伝えられる。復刻碑。	
■大平「熊の穴」の道供養碑 多くの難所の中でも最大の難所だったといわれる。宝暦8年(1758)5月。普請には4日間で延べ435人が協力したといわれる。		■褒地 新道供養碑 茂市駅から南西方向1.3kmの褒地トンネルの南口にある。碑文には宝暦8年(1758)10月10日とある。	
■忘想歌千首 鞭牛の自筆による上・下巻五百首ずつからなる歌集。内容は展示ホール内のパネルにて紹介。		■牧庵鞭牛使用の大般若経 (宮古指定有形文化財)	